

【夏野菜の中間管理】

キュウリ(ウリ科)

<これからの管理>

キュウリは根の長さが2mほどになりますが、地表近くに浅く張ります(浅根)。水はけを良くするとともに、夏の高温乾燥期には敷きわらなどをして根が乾燥に合わないよう、丈夫に育てます。一度に多くの肥料をやると「肥やけ」(濃度障害)を起こすので注意します。

I 育て方

- ①本葉が5～6枚の頃に巻きづるが出るのでネットを張る。つるはネットに絡みついて伸長する。
- ②本葉が5～6枚までに出た「子づる」はすべてかきとる。それ以降の本葉から出た子づるは葉を2枚(2節)残して摘芯する。これで葉が込み合うのを防ぎ、風通しをよくする。

II 肥料

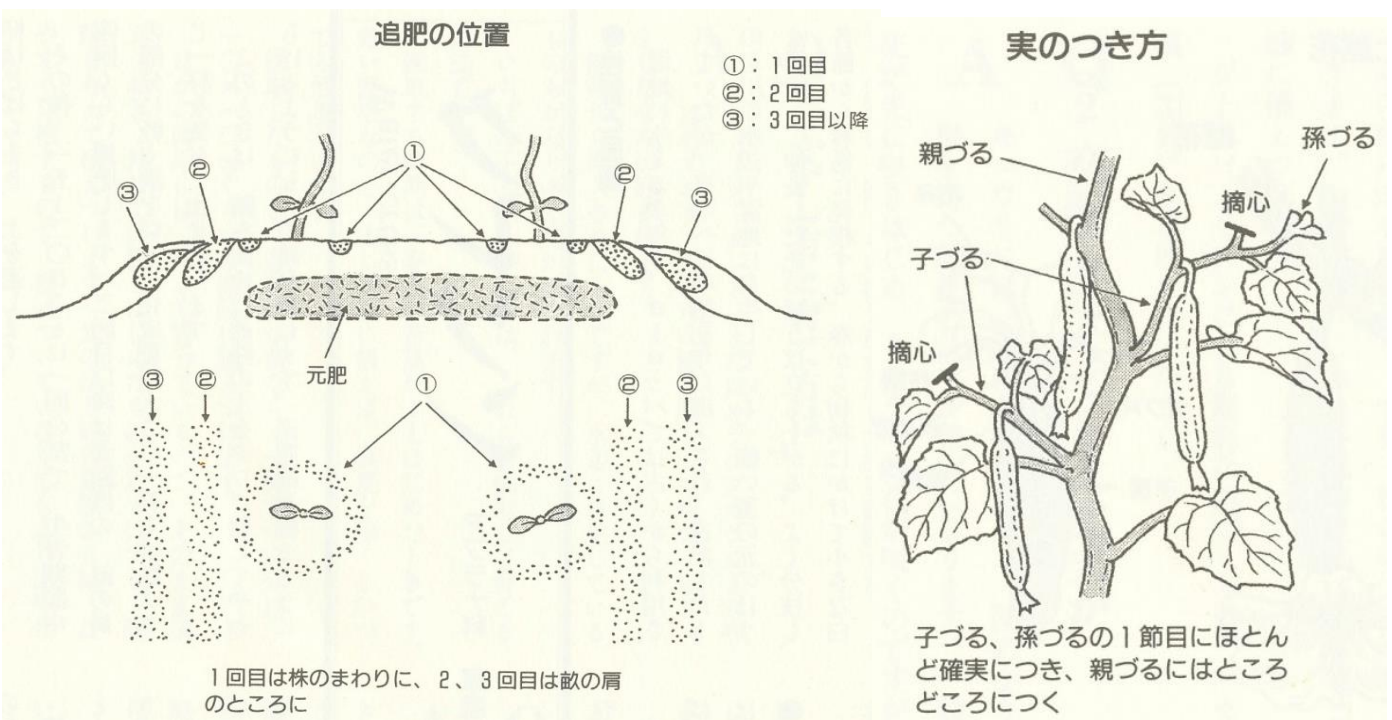
キュウリは生育が早いので肥料切れしないようにする。草丈が70～80cmになったら半月に一度、肥料を与える。キュウリの根は浅く広く伸びていくので、追肥は株元からだんだん遠くの位置に施す。

初めのうちは株元 → うねの肩 → 通路に施す

III その他(連続して長い間収穫する方法)

収穫している株の間に新しい種子を直まきして(7月中)次に収穫するキュウリを育てておく。そうすると秋まで連続して収穫することができる。

*キュウリの植え付け時にネギの仲間(ネギ、ニラ、ワケギなど)を株元に一緒に植えると生育がよくなる。

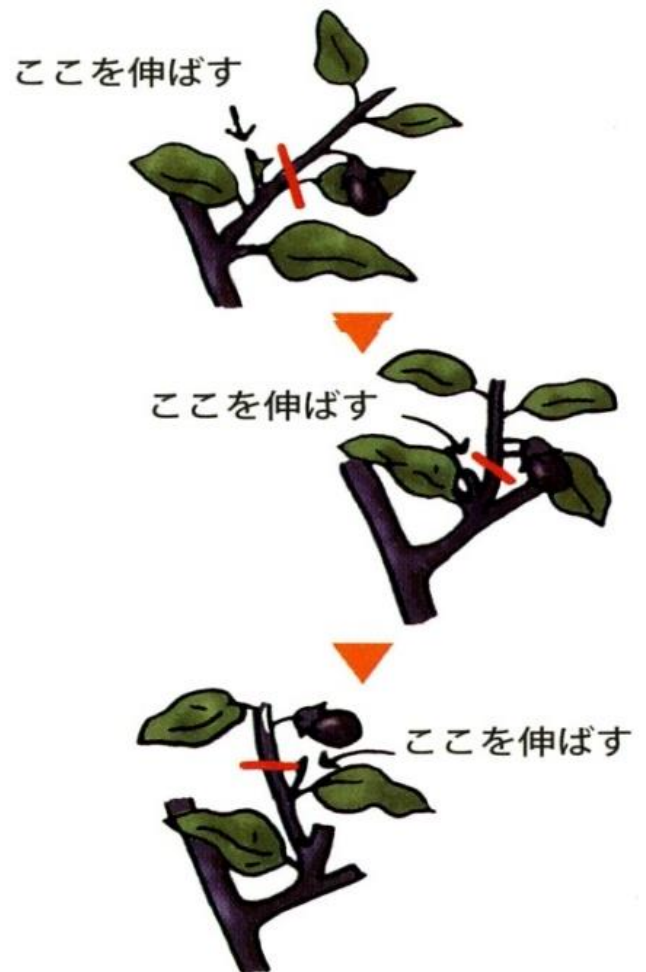


ナス (ナス科)

追肥：植え付け後(活着した頃)15～20日後に化成肥料を50g/m²施用する

- ・ 3本仕立て：一番花のすぐ下と、次の脇芽を残し、主枝と合わせて3本仕立て
 - ・ 2本仕立て：一番花のすぐ下の脇芽を残し、主枝と合わせて2本仕立て
- この時支柱をする。

3本仕立ての場合



収穫と剪定

3本仕立て、または2本仕立てにしていくと、葉ごとに花が咲き、実ができる。

実を収穫すると、わき芽が伸び出して花が咲き、実ができる。

実を収穫した後、実の下の葉を1枚残して剪定する。

残した葉からわき芽が伸び、花が咲く。そして実ができると、収穫する時、実の下の葉を1枚残して剪定する。あとはそれを繰り返していく。

※実が成りだしたら半月に1回の間隔で追肥を施す。

サツマイモ(ヒルガオ科) 石灰なし!、肥料なしで!

※「いらん、おせっかい(石灰)！」甘やかしてはダメ(無肥料)!

肥料をやると葉ばかりひろがる「つるボケ」になり、イモが太りません。

また土の余分な肥料分を掃除する「クリーニング・クropp」と呼ばれています。

1. 地ごしらえ

水はけのいいところなら大丈夫。前作を収穫したあとは無肥料で!

植え付け前に土を良く耕しておき、20~30cmほどのうねの高さにする。

2. 植え付け

①5月中旬~下旬が最適。

苗は、茎が太く25~30cm 7~8節のものがよい。茎の先が赤紫色になっていて、葉は肉厚なものがよい。

②植え付ける前に苗をまとめて水揚げしておく。

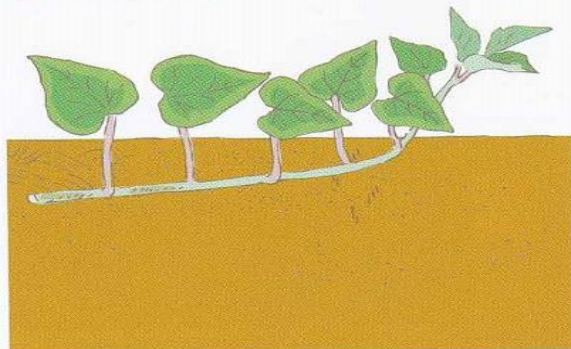
③苗は寝かせて植える植え方(舟形植え)、縦植え等色々植え方がある。

3. 育て方

①植え付けたらたっぷり水をやる。茎が伸びて新しい葉が出て、根が活着してくるとその後は水をやらなくてよい。

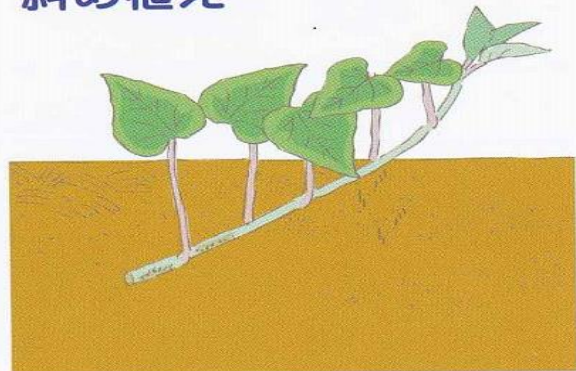
②葉が地面を覆うことにより、光合成が盛んになり、でんぷんが多く形成されるようになる。

水平植え



苗を水平かやや中央が窪むように植える方法。小ぶりのイモが数多く収穫できる。

斜め植え

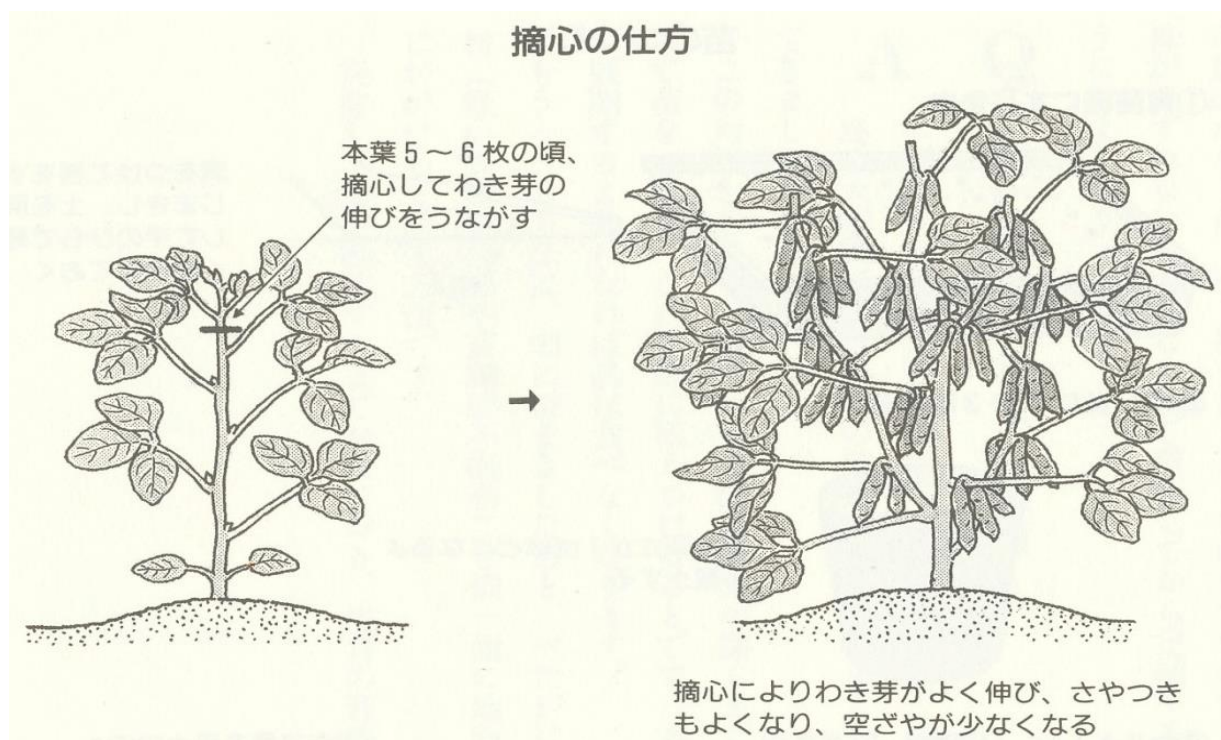


苗を斜めに挿すように植える方法。イモの数は水平植えに比べて減るが、一つひとつのイモが大きくなる。

エダマメ (マメ科)

特 徴	エダマメは大豆の若いさやを枝つきのまま塩ゆでして食べるところから付けられた名前です。 タンパク質やビタミンA、B、Cを多く含みます。 できるだけ日当たりの良いところを選びます。	
播種の時期	5月下旬~6月上旬	7月下旬~8月中旬
土の準備	2週間前 耕起: 30cm 苦土石灰 : 100g/m ² 最適 pH : 6.0-6.5 1週間前 発酵牛糞堆肥 : 2kg/m ² 化成肥料(8-8-8) : 100g/m ² ※畝の高さ: 15cm	

発芽難度	容易
播種	① 間(蒔く幅)20cm、株間 25cm で3粒ずつ点まきする(千鳥まきがよい)。 ② 2cm ほど覆土し、種が流れないように注意して、たっぷり水やりする。
定植後の管理	・発芽して本葉が2枚になったらよい株を2本残し、1本間引く。 ※エダマメはさやの中に入っている豆の数(2~3粒)をまくと発芽とその後の生育が良くなる。その時に双葉が隠れるぐらいに土寄せする。 ・本葉6枚のころに摘芯(芯止め)し、わき芽を伸ばすようにする。株がしっかりしてさや付きもよくなる。その時期にリン酸やカリの多い肥料(過リン酸石灰など)を1㎡あたりふた握り施す。
収穫	さやが、ふくらみ、押すと豆がとびだす頃が収穫適期。
注意点	ハトなどの鳥害を避けるため、種まき後本葉が出るまで、べた掛け資材をかける。 または、育苗ポットで育苗し、本葉が出たころに畑に定植する。この場合も3粒まきにして育てると生育が良くなる。
害虫	(害虫名:カメムシ類) ベニカベジフルスプレーなど



簡単な施肥量の計り方

堆肥	スコップ1杯	約2kg
苦土石灰	1握り	約40g
化成肥料	1握り	約30g
(その他)	1つまみ	約2g